

# 介護ウェーブ 2019 推進ニュース

-無差別平等の介護と福祉を-

**STOP! 介護改悪**

2019年11月14日発行 No.9



## 全国介護学習交流集会

11月10日（日）に今年も全国介護学習交流集会を開催し、全国の様々な団体や個人209名が参加しました。



集会では「介護保険の現状と課題」について、様々な立場の方から発言がありました。

労働者の立場では、全労連の岩橋祐治副議長より、介護職員5,817人を対象とした介護労働実態調査の結果が報告されました。現場の実態として高齢化が進み、若い人がいない職場が増えていて、例えば訪問介護事業所で働くヘルパーの平均年齢は58.7歳となっており職員不足は深刻化している。この調査結果を元に厚労省と交渉も行ったと報告されました。

利用者・家族の立場から、公益財団法人「認知症の人と家族の会」東京支部の大野教子代表は、アルツハイマー国際会議が転機となり、認知症の正しい理解が社会へ広がってきている。一方で、住みやすい世の中になることを展望したが、介護保険制度は2000年に開始され、当初4年は出来て良かったと感じていたが、その後の度重なる制度改正で費用負担が重くなり、同居家族いると家事援助が適用されないなどの利用制限もされ、とても使いづらい、使えない制度に変貌してきたと報告されました。

事業者の立場では、全日本民医連林事務局次長から、介護事業の現状について、2015年の介護報酬改定では、基本報酬が軒並み引き下げられ介護事業所の収支差率は2014年度に比べ軒並み悪化した。老人福祉・介護事業所の倒産件数は2017年度に111件に達したが、倒産として把握されていない、事業所

の閉鎖・廃業も相次いだ。介護従事者不足が深刻化しているが、ケアマネジャーの不足も深刻化しており2018年度の受験者は前年度より8万人も少なくなった。特定処遇改善加算が開始されたが、矛盾が明らかになっている。現在の介護報酬の加算方式ではなく、全ての介護従事者を対象とした、消費税増税によらない一般財源による交付金方式での実施を求めていくと報告しました。



記念講演では、佛教大学の岡崎祐司教授から、介護保障への展望、ケアの本質からみた介護保険改革の問題点と運動の方向についてお話を聞きました。

そもそも介護や生活援助、生活支援はケア（養護）の中の一部であり、ケアとは「自立的な生活が難しい人を対象にその人の心情や葛藤に寄り添い、生活全体を援助し人間らしい生活、個人の尊厳を守る行動」のことを指し、現在の様々な国の審議会等の議論ではケアとは何かということが抜け落ちている。また、地域包括ケアの名の下に、自助・互助・共助・公助が進められているが、そもそもそれらは福祉ではない、共助・公助などを福祉という学生には単位をあげられないと話しました。

岡崎教授の講演内容は、2017年に大月書店から発刊された、「老後不安社会からの転換」に詳しく述べられています。当日も販売を行いました。すぐさま持ってきたものは完売しましたので、購入出来なかった方は、大月書店のページからお買い求めください。



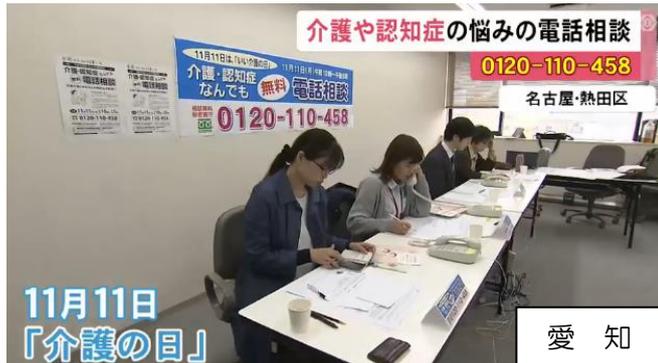
<http://www.otsukishoten.co.jp/book/b314254.html>

集会の開催にあたり、「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」や「日本高齢期運動連絡会」、「全日本年金者組合」などから多くの団体からメッセージが寄せられました。

集会宣言では、介護の利用者、事業者、労働者が手を携えて、介護保険制度の抜本的な改善と基本的人権としての高齢者ケア保障の確立を目指し、声を上げ、共に行動していくことが確認されました。

## 介護・認知症無料電話相談

11月11日の介護の日に、全国24都道府県で電話相談窓口を開設し、34都道府県から251件の相談がありました。



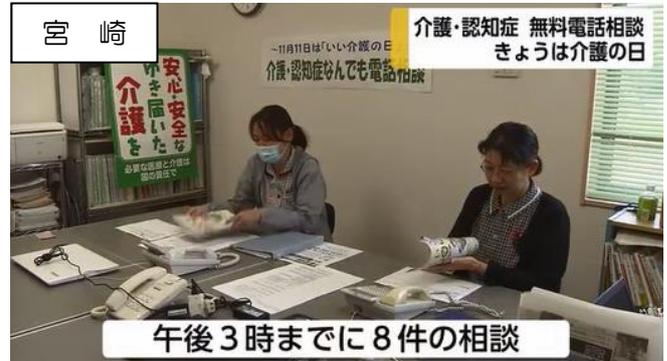
相談内容は、介護保険制度に関するもの105件、介護サービス内容114件、家族内での介護や生活をめぐる問題121件、介護労働者の労働条件10件、その他53件です(重複選択)。相談の中で認知症関連の相談が数多くあったのも特徴です。



家族はデイサービスに行ってもらったりヘルパーの利用を希望していても、介護を受ける本人が拒否したり理解ができなかったりしてすれ違いが起っていてどうしたらよいか悩んでいる姿や、認知症

の方の日々の介護で疲れてしまっている姿が伺えました。それを何とか解決したいと思うものの、利用できる介護保険サービスの全体像が見えないため「どうすればよいか分からない」という声が多く寄せられました。そうした悩みをどこで受け止めてもらえるのか分からない中で、藁をもつかむ思いで電話をかけてこられたのだと思います。

この日の行動は各テレビ局で朝から報道され、全国的な大きな取り組みとなりました。



## 事務局より

11月11日の「介護の日」前後に、各地で様々な取り組みが実施されています。実施した企画内容についてニュースで全国に発信します。写真や記事などは是非事務局まで送ってください。お待ちしております。



全日本民医連 介護ウェア7.2019 推進本部  
TEL:03-5842-6451  
E-mail: [min-kaigo@min-iren.gr.jp](mailto:min-kaigo@min-iren.gr.jp)